樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

2017.2.25
第68号
赤石地区
ひづめ館懇話会

事務局 〒028-3309紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 tel 019-676-3999　会長 高橋敬明 tel 090-3125-3776

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット13頁 —

3 比爪－奥州藤原氏第二の拠点－　② 周縁遺跡

《高水寺(紫波町二日町字古館)(1)》

「吾妻鏡」文治五年九月九日条には、「高水寺」についての記述があります。高水寺の建立時期については諸説ありますが、いずれにせよ、12世紀段階に高水寺という寺院が存在し、高水寺が金堂を有し、僧侶が16人以上いる大規模な寺院であったことが伺い知れます。

12世紀の「高水寺」の寺域は明確ではありませんが、中世斯波氏の居城「高水寺城(通称城山)」と重複していると推測されています。「城山」は北上川縁に位置する独立丘陵で、東辺は北上川に向かって直接急斜面が落ちる特徴的な景観を呈しています。寺院の高水寺は、「城山」の山中の各所に伽藍を配置した山岳寺院であり、14世紀の斯波氏の紫波郡下向時に、山城の立地に適していることから、高水寺の字域を城館（高水寺城）として改造したと推測されます。

《《《　3～4月行事予定のお知らせ　》》》

3月22日 （水曜日）	第80回月例発表会	午後７時から午後９時まで　赤石公民館 発表者 ： 金 濱 興 一 テーマ ： 「ひづめ」１ 発表者 ： 高 橋 敬 明 テーマ ： 鎌倉時代の紫波
4月　9日 （日曜日）	平成29年度定期総会	午後２時から午後３時まで　赤石公民館 議題①　平成28年度事業報告、収支決算 議題②　平成29年度事業計画、収支予算 議題③　会則の一部改正（名称変更） 議題④　平成29･30年度役員改選
4月19日 （水曜日）	第81回月例発表会	午後７時から午後９時まで　赤石公民館 発表者 ： 平 井 和 夫 吾妻鏡と奥州平泉　8 発表者 ： テーマ ：　（ 未 定 ）

◎　第４回運営委員会を、３月２日(木) 午後６時30分から赤石公民館会議室で開催しますので運営委員及び事務局員の方ご出席ください。協議事項は平成29年度事業計画概要等です。

平成28年度紫波町発掘調査報告会実施要項（申込不要、定員/当日先着50名まで）

期　日　　３月１５日（水）　　会　場　　紫波町中央公民館

１８：１０～　開場、受付　　１９：５０～　町内郷土史関係団体活動報告

１８：３０～　開会行事　　２０：１５～　遺物解説　～２０：３０

１８：３５～　埋蔵文化財調査報告会（日詰西遺跡、南日詰大銀Ⅱ遺跡、間木沢遺跡）

※ 一年に一回の機会ですので、できるだけ都合をつけて皆で参加し会を盛り上げましょう。

☀ ☀ ☀ 比爪館跡の発掘調査 №38 ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀

比爪館跡 第28次・第29次発掘調査報告書 ＜紫波町教育委員会(平成25年3月発行)＞

【比爪館遺跡 第29次発掘調査】 ～ 一部抜粋 ～

5 第29次調査Ⅲ区

(3) **まとめ** (27頁)

比爪館跡は、第29次調査Ⅰ区・Ⅱ区（平成23年度）まで調査を実施している。今年度の調査は昨年に引き続き、第29次調査Ⅲ区（平成24年度）で下水道管設置工事に伴う調査であった。しかし、調査面積が非常に狭く全体像を把握する事は、残念ながらできなかった。今回の調査では、井戸端・溝跡・柱穴などを検出し、かわらけがコンテナ１箱分出土した。検出した遺構の時期は、出土遺物の形態と埋土堆積状況から、12世紀後半から末期に属すると考えられる。

第29次（Ⅲ区）現況 （北から）

第29次（Ⅲ区）全景 （南から）

1) **井戸跡**(SE-037) 簡素な素掘りの井戸と推測される。

2) **溝跡**(SD-048～SD-051) ４条検出。 SD-048 埋土上層部に微細かわらけ少量。 流れ込みと思われる。また、北側に中端を設ける。 SD-049 埋土上層部に微細かわらけが多く含まれ、これも流れ込みと思われる。 SD-050 埋土上層部に微細かわらけが多く、最下層からまとまったかわらけが出土。意図的に廃棄されたものと思われる。SD-051 幅0.4mで布掘され、壷掘（不均等）が施されている。堀か柵の可能性が考えられる。

3) **柱穴**(SP-01～SP-12) 柱穴12口を検出。柱痕が確認できたものはなかった。今回の調査では、調査面積が狭く、柱穴の性格は判断できなかった。

また、今回の調査で、塀もしくは柵と考えられる遺構を検出した。この遺構について少し考察してみる。これまで比爪館跡の調査を実施し、塀もしくは柵が検出されたのは、第23次24次調査で２条確認されているだけである。この２条に関しては本遺構のほぼ中心部で、掘立柱建物跡が隣接していることから、塀の可能性が十分考えられる。

今回検出された遺構は、本遺跡の南西端に近い部分に位置する所で検出され、状況が異なる。柱の太さも柱間の間尺もまちまちで、簡素な造りで井戸もしくは、小さな物置建物を囲う塀か柵ではないかと推測する。しかし、調査区が極めて狭いので、どのような性格をもつ遺構なのかは、今回の調査では断定することができなかった。

比爪館跡の南西端は調査例がなかったが、今回新たな資料が得られた。今後は本遺跡の南端部での広い面積の調査成果を期待する。

4) **出土遺物**

調査範囲が幅 1.2mと非常に狭い範囲でありながら、今次(第29次Ⅰ区～Ⅲ区)の調査においても、かわらけと小片ではあるが中国産磁器が出土した。

今次の調査で出土した小型ろくろかわらけの特徴としては、意図的に口縁部を打ち砕いて廃棄したとみられるような底部のみが多く、調査の段階で遺構との関連などその性格を知るかりを得たかったが、調査した範囲からは結果は見いだせなかった。また、Ⅰ区・Ⅱ区から出土した２点の中国産磁器は、いずれも白磁で、１片は白磁壷と思われ同時期の遺構としては希少な出土となった。